

ペド聖職者の犠牲者が立ち上がり、#ChurchToo という ハ シュタグが普及

莫大な数の僧職による子供虐待被害者が、社会メディアに躍り出る

【訳者注】この記事から、実態は我々の想像を超えるものだろうと推測できる。外の世界の“ペドフィリア文化”とともに、「宗教界でも」起こっているこの悪辣非道と、それが一拳に明るみに出るといふこの事態は、偶然の出来事ではないであろう。これは、「そこから何かを学び取れ」といふ、我々に与えられた“終末現象”に違いない。トップが腐れば下々が腐るのは当たり前だが、このトップは政治の世界でなく、一般人が信じ切り、魂を預けていた、精神世界の指導者たちである。デイヴィッド・ウィルコックが、何年も前に「信じ切っていた者に裏切られるということが今に起こる」と予言し、その挿絵（写真）に、ある男女が不倫行為の最中に、突然、妻が現れる場面が使われていたが、この裏切りはそれどころの話ではない。「何かが根源的に間違っている、世界を根本的に変えよ」といふ信号に違いない。

Jay Greenberg, www.nnettle.com

November 24, 2017



聖職者によるペドフィリアの犠牲者が、社会メディアにあふれるようになり、宗教的人物の手による子供虐待の事実が次々と明らかになって、新しい#ChurchToo というハシュタグが、社会メディアで流通している。

勇気ある犠牲者たちが前面に現れて、男、女、それに子供たちを強姦したペドファイル神父や牧師たちを、追い出している。

また、女性たちからのいくつかの話では、聖職者が家庭内虐待の被害者の相談に乗っても、虐待的な婚姻関係のままであることを勧め、夫に“従い”、暴力には祈りと、虐待者への許しによって対処することを勧めるケースがあるという。

さらにまた、教会の指導者や、教師や、親たちでさえ、教会の中での極悪犯的虐待の話聞いても、その告発を無視するか否定するだけ、という訴えがある。

こういう人たちが虐待を無視することで、さらにこれを助長するようになり、今、**人民**が、これまでに例のないスケールで立ち上がり、行動を要求している。

ABC の報道によると：——ハリウッドやワシントンでの、組織的な性的ハラスメントや襲撃が暴露されたことに引き続いて、世界中の女性が、教会内での虐待の個人的な物語をツイートし、女性に対するセックス主義や暴力に貢献していると彼らが言う、宗教的な教え、指導者、その文化を、暴こうとしている。

<http://www.abc.net.au/news/2017-11-24/church-too-christian-victims-of-abuse-join-social-media-twitter/9188666>

ChurchToo (教会でもまた) が生まれた。

https://twitter.com/hashtag/churchtoo?src=hash&ref_src=twsrc%5Etfw&ref_url=http%3A%2F%2Fwww.abc.net.au%2Fnews%2F2017-11-24%2Fchurch-too-christian-victims-of-abuse-join-social-media-twitter%2F9188666

話し言葉詩人の Emily Joy や、作家で宗教的トラウマ研究者の Hannah Paasch によって始められた、このハッシュタグ #ChurchToo は、またたく間に、女性たち（や男性たち）のオンラインのたまり場となり、探られた、レイプされた、強制された、しかし教会共同体の教区民や牧師には信じてもらえなかった、という話の公開の場となっている。

その大きなうねりがやってきたのは、同じ週、ABC ニュースによって、多くのオーストラリアの女性たちが僧職の夫*によって虐待されてきたこと、そしてどの宗派の教会でも、彼らの訴えを無視あるいは否定し、適当なケアをしていないことが明らかになったときだった。[*clergy husband: 英国国教などで、男性僧と女性僧が結婚するしきりがある]

ABC ニュースは、過去一年間の、信仰共同体内部の家庭内暴力を調査し、報告しており、

その期間中に、宗教的セッティングの内部で虐待を経験した、何百という女性（時には男性）がコンタクトをしてきた。

「多くの体験者は、いくつかの教会では、男性の主導役に対する女性の従順という教えがあり、それが彼らの虐待の素地をつくり、これを悪化させてきたと言っている。」

ハナ・パーシュは、友人のエミリー・ジョイと#ChurchToo を始めたのは——このハッシュタグは、女性への性的ハラスメントと襲撃の話を記録する運動 #MeToo に鼓舞されたものだ——「黙らせられ、消去されてきた」虐待生き残り経験者のためだった、と言っている。

アリゾナ州フェニックスに住むミズ・パーシュは、ABC ニュースにこう語っている：——

「私は、体験者たちの物語をオンラインで調べ、自分でも体験し、友人たちが虐待の余波とトラウマに耐えているのを支えてきましたが、一方で、彼らに対するケアは全くなく、彼らをケアし、支え、保護するはずの信仰共同体からは、敵意を受けることさえよくあるのです。」

氷山の一角だろう。

家庭内暴力のキリスト教徒経験者のためのウェブサイト、「正義を求める叫び」のリーダー Barbara Roberts は、#ChurchToo は、オーストラリアを含め、教会内の虐待問題の表面をかすったに過ぎないと言った。彼女は ABC ニュースにこう話した：——

「経験者の物語のこの噴出は、もっと増えるかもしれません。そうなることを望みます。しかし、これに静かに共謀し、この虐待が起こるのを助長した男性たちは、彼らのやり方を改めるでしょうか？ これが大きな問題です。」

「勇気をもって発言する女性が多いほど、男性は耳にふたをすることが難しくなります。しかし男性は何によらず、耳にふたをすることが多く、それが男性の特権の一部になっています。」

「主導役や従順を教えない教会でも、男性の特権は存在しています」

教会指導者は聴くべきである。

エミリー・ジョイは、Moody 聖書学院から神学と哲学の学位を受けているが、彼女自身、

虐待経験者であり、教会は、性的犯罪に対処する方針を設け、「厳しく適用する」ことが必要だと彼女は言った。

「この方針を広く公的に適用すべきです。優先して保護すべきは犠牲者であって、虐待者ではないのです」

しかし最初に、教会指導者が耳を傾けるべきだと、ミズ・パーシュは言った。

「私は、教会リーダーが、会衆の前に虐待者を引き出し、彼らの有害な神学が、経験者の人生に及ぼした、はかりしれない苦痛と損害が、どれほどのものかを味わっていただきたいのです。」

——以上